

ほっかいどう N I E 通信

Newspaper in Education 教育に新聞を



発行 北海道 N I E 推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内
☎ 011-210-5802 FAX 011-210-5826

わがまち新聞コンクール

帯広中「オベリベリ」

道内作品が全国4連覇

N I E 週間(11月3-9日)の関連行事として、日本新聞教育文化財団が全国の小中高生から作品を募集していた第4回「わがまち新聞コンクール」で、帯広第四中学3年4組6人グループ(代表・小林真愛さん)の作品「オベリベリ」が全国一の最優秀賞に輝いた。同賞は第1回から北海道の作品が受賞しており、4年連続の快挙となった。

(関連記事2面)

幕別糠内小に佳作

また、幕別町糠内小5、南幌中が団体賞(全国で6年(代表・中野太我君、13校)に選ばれた。5人)の作品「マクウンベツ」が佳作に、南幌町「岡山ほっけー新聞」岡

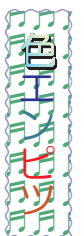
山県笠岡市陶山小4年グループ、「櫃石(ひつし)新聞」香川県坂出市「櫃石中2年グループ」、「富士山かわら版」静岡県吉原高文化新聞委員会。表彰式は11月8日、横浜



の日本新聞博物館で行われ、最優秀と優秀グループが招かれる。審査で「オベリベリ」(アイヌ語を基にした帯広の古い呼び名)は、「ふるさとである帯広を様々な角度から取材し、自然の豊かさ、先人の苦労や知恵を紙面にまとめていることで、郷土に愛着を持ち子供たちが成長したことが感じられる。図表イラストを初め手書きで仕上げた紙面も美しい」と高く評価された。同コンクールは同財団が地域の話題、名物などを題材に個人や学校で作った作品を募集。今回は26都道府県から2645点の応募があった。

自然の神秘さ

「神無月」を迎えたが、神のいたずらか、台風が北海道に一つも上陸していない。原始林を散策していた時



時間⑦協力⑧フィードバック⑨賞賛・相互教授が挙げられる。その原則から、今春告示された小中学校新学習指導要領において、すべての教育活動の中に言語活動の充



札幌市稲陵中学校長

一木 一

「新鮮さ」生かした教材に

ルタイムな公民の資料として、その題材にあった活きのいい新聞を廊下に掲示して、活用を図っている。活字の大きさをただでなく、その言葉の本来的持っている意味を大事にしていく教育活動がさ

る。札幌市生涯学習総合センター「ちえりあ」のような生徒向けの雑誌、図書、新聞ばかりでなく、教職員向けの書籍もあるなど、生徒と教職員が活字という接点で交流を深めるような場をイメー

教科書では得にくい教材を開発し、カリキュラムの工夫に積極的に取り組み、生徒や教職員・地域の人々の心を揺るめかすような学校システムづくりをしていきたいものである。

実が求められている。今後新聞の活用をさらに広げていく意義は大きいと思う。新聞を題材そのものとして、導入教材に使う社会科教師は多いのではないかと。本校でも、社会科教師がリアルタイムに重要である。朝読書においては、活字を通して得る心への揺さぶりが生徒個々に大きな影響を与えている。本校では、図書室の改善策として学習室を兼ねたスペースづくりを検討している。最後に、毎日発行されている、情報源としての新聞の存在価値は非常に大きい。新聞は教科書よりも情報の活きが良く、タイムリーな題材が豊富に凝縮されている。その意味で、ホタルの黄緑色の光などの謎解きをする研究者誕生は夢物語だろうか▼寒冷前線が南下し、北風と共に冬將軍の足音が聞こえてきた。残り少ない秋を満喫しよう。(高)

がする」と女性が立ち止まり、雪虫の飛び交う樹木を眺めていた▼10月の岩見沢セミナー、南幌町夕張太の浅井先生は一年生の授業で新聞の写真を活用した。季節の変化・生物の生態の神秘さを発見させ、子どもの感性や感情を見事に引き出し育てていた▼十勝新聞研究会で更別中央中の長尾先生は、道徳の授業「命の値段」の発展段階で新聞記事「瓦礫の下に被害者」を引用。行間ににじむ母の気持ちと愛情を感じた生徒たちが涙ぐむ風景があった▼今年のノーベル賞は物理学・化学分野で四人の日本人が受賞。科学界最大のブレイクである。緑色の蛍光を発するクラゲが医学・生物界で役立っていることに驚きの目を開いた▼自然界の神秘さに興味を持ち、電気クラゲやホタルの黄緑色の光などの謎解きをする研究者誕生は夢物語だろうか▼寒冷前線が南下し、北風と共に冬將軍の足音が聞こえてきた。残り少ない秋を満喫しよう。(高)

3地区でNIEセミナー

当協議会主催のNIEセミナーが北見、江差、岩見沢の3地区で開かれ、NIEに取り組む教諭らが新聞活用によって子供たちが変わった実例などを報告した。

地域への関心高まる

●北見

第6回北見・オホーツクセミナーは9月6日、北海道新聞北見支社で開催。報告者は北見市東相



内中の飛澤節子教頭と網走市白鳥台小・菅原巧、北見市小泉中・山崎健太郎、網走桂陽高・川又則人の3教諭。前任の小泉中のかべ新聞づくりを担当した飛澤教頭は「昨年は校区内で大規模断水やガス漏れ事故などが起きた。その体験などを取材させたが、地域に対する関心が高まった」と述べた。各教科で新聞を教

●江差

第2回江差・松山セミナーは9月20日、江差町役場で開催。写真。報告者は江差中・山下尚宏、今金中・亀井孝志、江差高・岩間洋之の3教諭とNIEアドバイザーの函



館神山小・深澤昌明教諭。山下教諭は、新聞のコラムを使った、タイトル付けや漢字テストの実施が国語力アップにつながっているとして強調。文化祭活動の一つとして学級新聞づくりに取り組んでいる亀井教諭は「表現力の育成に役立っている」と述べた。新聞局顧問の岩間教諭は、生徒自らが作る新聞には多くの教育的効果があると指摘。小学校での豊富な実践経験を持つ深澤アドバイザーは、社会科や総合学習の時間での効果的な新聞活用について報告した。

新聞作りが表現力育成

材にしている菅原教諭は「子供たちの新聞観が変わり、学習に役立つ」とみている」と強調した。写真。山崎教諭は、実社会の

写真から記事推測



●岩見沢

第5回岩見沢・空知セミナーは10月4日、北海道新聞岩見沢総局で開催。報告者は南幌

町夕張太小・浅井眞理子、由仁中・佐藤伸也、滝川西高・好川真弘の3教諭とNIEアドバイザーの札幌旭丘高・高瀬敏樹教諭。浅井教諭は、1年生に朝刊の写真だけを寄せ、なぜ記事になったかを答えてもらうクイズ形式の授業を実践。「子供たちは写真に注意深く見て、記事となった根拠を探る。自分の考えを表現する力が身に付き、新聞に関心を持たせることが出来た」と発表した。佐藤教諭は新聞投稿欄への投稿で、作文を書けな

動きに目を向ける子供たちが確実に育っていると報告。川又教諭は北海道新聞の投稿欄「みらい君の広場」への投書で、生徒たちの思考、判断、表現力が高まったと説明した。

旭丘高は、学校ぐるみでNIEに取り組んでいる。高瀬アドバイザーは各紙の写真や社説などを比較させ、メディアリテラシーを身につけさせる授業などを説明した。

道内最優秀も「オベリベリ」

わがまち新聞

わがまち新聞コンクールの全国審査に先立って行われた「北海道コンクール」で10月9日、入賞者が決まった。234点の応募作品の中から最優秀賞には、帯広市第四中3年4組6人グループの作品「オベリベリ」が選ばれた。優秀賞、団体賞は次の通り。(敬称略)

初任校がNIEの実践校だったことが、私とNIE活動との出会いであった。当時は、新聞の持つ利点や効果をそれほど意識することなく、スクラップ活動や朝の会でのニュース紹介などを行っていたように思う。最近では低学年の担任が続いたこともあり、じっくりとNIEに取り組むこともなかなか出来ずにいたが、今年度久々に高学年担任となり、いろいろと頭を悩ませながら、試行錯誤の取り組みを始めることにした。

NIEアドバイザー 森谷 栄介



新聞記事を目にした時に、「どうだろう」「何を言いたいのだろう」というこ

とを子ども達に考えさせるようにし、活動を通して考える力を伸ばせるよう心がけている。

NIE実践奮闘記

「考える」力を伸ばす

面もあったが、子ども達は一言もしゃべらずに、真剣に記事を読み込んでいた。「どうしてせっかく生まれした赤ちゃんを育てるのだから」「赤ちゃんがかわいそ

帯広市内で起きた、赤ちゃん置き去り事件の記事を授業で扱った時のことである。テーマが重たく、食いついてくれるか心配した

う」という反応から、「自分が大人になっても絶対にそんなことはしない」「もっと親としての自覚を持つべきだ」という意見までたくさん出てきた。この新聞記事の持つ教材としての力が、子ども達の思考を活性化させ、引き出したのだと思う。その他にも、コラム欄を

読み、筆者がどんなことを

言いたいのか考える活動も何度か続けている。まだまだ、わかりやすいテーマでの取り組みしかできない段階だが、活動を継続していくことで、今後、力が伸びていくと考えると考えている。新聞記事を活用する時、「どんな力を伸ばしたいのか、身につけさせたいのか」を意識しながら実践していくことが重要ではないかと考える。そのことを念頭に置いて、これからも楽しくNIEの活動を続けていきたいと思っている。

(帯広市啓西小教諭)

家族の対話深め

地域交流に一役

文章力向上だけじゃない



新聞への投稿で、生徒の文章力がアップしている喜多教諭の授業

みで際立った成果を上げている宗谷管内枝幸高校の喜多理賀教諭の授業をレポートする。
(北海道新聞N I E推進センター委員・小田原賢二)

枝幸高

新聞への投稿で、高校生の読解力、文章力が向上。それだけでなく家族の対話が深まる「ファミリーコミュニケーションづくり」にも役立つ。こうした取り組み

見学したのは10月14日午前。最初に3年B組、次いで同A組(いずれも31人)の授業。この日のテーマ

新聞投稿を積極活用

実践校 レポート

マは「命の大切さ」だった。B組の授業では冒頭、清水希帆さんが2年の3学期に父親のことを書いて、北海道新聞の小中高生の投稿欄「みらい君の広場」に掲載された記事を読み

産んだ」「母親の自覚が足りない」「育児うつ」「コミュニケーション不足」といった指摘があったが、結局「相談相手がいれば命の大切さを理解し、子どもを殺すことはなかった」と結論づけた。

最後に生徒たちは授業の感想をつづり「家族とのコミュニケーションは大切」「家族という相談相手がいって幸せ」「隣近所との付き合いを大切に」する枝幸高校の授業は、生徒たちの心に響き、子どもを殺すことはなかった」と結論づけた。

さらに、携帯やカメラで撮影していた人たちの心情をどの程度理解できるか、生徒一人ひとりが心情円板カードで示し「全くわからない」「好奇心があるのでも反射的に撮る気持ちがある」「理由を述べ合った」。

「母の自覚が足りない」「育児うつ」「コミュニケーション不足」といった指摘があったが、結局「相談相手がいれば命の大切さを理解し、子どもを殺すことはなかった」と結論づけた。

最後に生徒たちは授業の感想をつづり「家族とのコミュニケーションは大切」「家族という相談相手がいって幸せ」「隣近所との付き合いを大切に」する枝幸高校の授業は、生徒たちの心に響き、子どもを殺すことはなかった」と結論づけた。

さらに、携帯やカメラで撮影していた人たちの心情をどの程度理解できるか、生徒一人ひとりが心情円板カードで示し「全くわからない」「好奇心があるのでも反射的に撮る気持ちがある」「理由を述べ合った」。

上げた。続いて、喜多教諭が事前に実施した親についてのアンケート結果を紹介し、生徒たちが日ごろ両親をどのように思っているか、もう一度考えさせた。その後、9月に福岡と千葉で相次ぎ発生した母親の幼児殺害事件の記事を読み、親が子どもを殺す背景には何があったのか、ブレインストーミング。

生徒たちからは「経済的な理由」「望まない妊娠で産んだ」「母親の自覚が足りない」「育児うつ」「コミュニケーション不足」といった指摘があったが、結局「相談相手がいれば命の大切さを理解し、子どもを殺すことはなかった」と結論づけた。

さらに、携帯やカメラで撮影していた人たちの心情をどの程度理解できるか、生徒一人ひとりが心情円板カードで示し「全くわからない」「好奇心があるのでも反射的に撮る気持ちがある」「理由を述べ合った」。

命の大切さ考える

更別中央中で公開授業

北海道十勝新聞教育研究会主催の第19回北海道十勝新聞教育研究大会更別大会が10月17日、更別村更別中央中で開かれた。研究テーマは「生きる力を育てる新聞教育」を分

宮越由貴奈さんの詩を中心に命の大切さを考えた。最後に、「がれきの下」を携帯に遺書「忘れたい」で北海道新聞の記事を紹介し、命の大切さを共感的に理解させた。

事後研で、長尾教諭は「盛りだくさんになってしまったが、この題材とネタでやりたかった」と説明。参加者からは「このスタイルの授業もあり

で、教師の思いがあふれており、子供たちもそれをしてしっかりと受け止めていた授業だった」などの声があった。新聞記事をどこで活用するかは議論の分かれるところだが、それゆえ、N I Eの幅広さが伺えた授業だった。

その後、豊頃町豊頃小・阿部英一教諭が小学校での実践を基に新聞作りを講習、新聞作りを教

育課程の中にどのように位置づけていったら良いかなどについて話した。(北海道十勝新聞教育研究会事務局長・森田昌宏)

通り魔事件題材に「思いやり」考える



10月17日、札幌コンベンションセンターで開かれた第43回北海道道徳教育研究大会札幌大会で、

伝承芸能から散策路まで

ふるさと教材を提供



本紙「小学生のページ」に掲載された紙面を収録した「ふるさと教材集」

③ 十勝毎日新聞社

十勝毎日新聞社は、毎週火曜日「小学生のページ」で、「ふるさと学習教材作成委員会」による地域教材の提供を行っている。
 本社は1992年、社内にNIE教育相談室を設置、教師OBのコーディネーターを配置し、「かちまいNIE学級通信」を掲載した。翌年から「小学生のページ」「中学生のページ」に充実させ、94年から小学生のページの目玉になる「ふるさと教材」を開始した。
 コーディネーターが年間40回の

「小学生のページ」に掲載

十勝毎日新聞社は、小中学生の見学・体験学習を受け入れたら、新聞コンクールを主催しているほか、児童、生徒や教師が紙面作りに参加する小、中、高校

生のページを設けるなど、NIEの普及に積極的に取り組んでいる。同社の取り組みについて寄稿してもらった。

地元再発見、反響大きく

4 地方紙の 取り組み

学校では、この地産地消とも言える情報が授業、特別活動の材料になり、各委員や同相談室には「今度は何をとり上げるの」という問い合わせも多い。
 若山茂樹・教育相談室コーディネーターは「各委員は自分たちの住んでいる十勝にこんなものがあるのか、と十勝を再発見した喜びを感じ、楽しく取材活動をしている。これを親の共通の話題になっ

スケジュールを立て、教材作成委員の現場教師13人にテーマを振り分ける。得意分野を与えられるケースが多いので、各委員は取材活動を経て記事を作成する。
 昨年度の掲載記事は「交通安全に心掛けよう」「十勝小唄」「宝来ひよつとこ踊り」「おびひろ氷まつり」「とてつぽ通り」など多岐にわたる。
 5月20日に掲載した「藤の櫻山大仏」の記事では、大仏が建立された26年(大正15年)生まれのお年寄りから「場所を教えてほしい」という問い合わせが来るなど大きな反響

編集後記

○…ちょうど一年前のこの欄で「中学かべ新聞コンクールの入賞常連校にわがまち新聞コンクールへの応募を呼びかけたい。ひょっとしたら本道の4年連続全国一が実現するかもしれない」と書いた。○…帯広第四中が最優秀賞に選ばれ、その通りになった。3年生6人は受験勉強のかたわら夏休み返上で制作に取り組んだという。横浜での表彰式にはぜひ全員で出席して欲しいと思う。
 ○…ところが、この旅費は最優秀で2人分、優秀で1人分しか支給されない。毎年グループの作品が受賞するが、その度に各校では表彰式出席者の旅費をどうするかで対応に苦慮している。
 ○…四中でも親たちが話し合った。一生の記念、全員で出席させたいという親心で、結局不足分を親たちで負担するそう。主催者の予算が足りないとの説明もわかるが、支給人数をもう少し増やせないのだろうか。(小)

お知らせ

宮の森中で21日 NIE研究大会

第13回北海道NIE研究大会が11月21日(金)、札幌市宮の森中(中央区宮の森1条16丁目5)で開催される。当協議会と北海道NIE研究会の共催。午後1時50分から公開授業があり、同中の古畑理絵教諭が1年2組で、同市三角山小の檜克博教諭が6年1組で、いずれも国語科の授業を見せる。実践発表では札幌市円山小の伊藤健太郎教諭、立命館慶祥中の細川典敬教諭、由仁商業高の中川

8日 苫小牧セミナー

旭川は12月6日

当協議会主催の第3回NIE苫小牧・日高セミナーが11月8日(土)午後1時半から北海道新聞苫小牧支社(苫小牧市表町1丁目3)で、第8回NIE旭川セミナーが12月6日(土)北海道新聞旭川支社(旭川市4条通

る」と話している。
 本社NIE活動の中心になっているのがこの教材であり、学校現場との密着度を高める役割を果たしている。今後も良い教材を提供することで、NIE活動の充実を図ってきたい。
 (十勝毎日新聞社編集局長・小野寺裕)

竜治教諭がそれぞれ新聞を教材にした授業の事例を発表する。
 参加無料。申し込みと問い合わせはNIE研究会・豊島義明事務局(札幌市羊丘中教頭)へ。☎011(851)9352、FAX 011(851)0924。

「ほっかいどうNIE通信」は、北海道新聞ホームページ「NIE」(www.doshin-nie.com/)で、バックナンバーからご覧になれます。

10丁目)で、それぞれ開かれる。
 苫小牧・日高セミナーは胆振、日高両教育局、苫小牧市教育委員会の後援。実践報告者と助言者は次の通り。旭川セミナーの後援と発表者、助言者は未定。参加申し込み・問い合わせは協議会事務局(北海道新聞本社内☎011・210・5802)へ。
 ◇実践報告者 苫小牧市美園小・坂井亮一教諭 富川高・金子俊教諭 静内農業高・大村勲夫教諭 札幌市屯田中央・伊達峰史教諭(NIEアドバイザー)◇助言者 胆振教育局・藤原雅宏指導主事 日高教育局・高野隆広指導主事